

(4) 動植物、生態系及び緑地の状況

調査地域及びその周辺における動物・植物プランクトン、底生生物（動物）、付着生物（動物・植物）、魚卵・稚仔魚、魚類、鳥類の調査地点は、図 1-4-20 に示すとおりである。

ア 植物

(7) 植物プランクトン（資料 2-1（資料編 p.19）参照）

ガーデンふ頭南の植物プランクトンは、種類数は春季、細胞数は夏季が多くなっている。主な出現種は、珪藻綱の *Thalassiosiraceae* 及び *Skeletonema* spp. 等である。

出典)「基本計画調査（環境影響評価調査（現況）」（名古屋港管理組合，平成 24 年）

(4) 付着生物（植物）（資料 2-2（資料編 p.20）参照）

大手ふ頭南では付着生物（植物）は、ほとんど確認されていない。

出典)「基本計画調査（環境影響評価調査（現況）」（名古屋港管理組合，平成 24 年）

(ウ) 陸域の植生

調査地域及びその周辺の現存植生図は、図 1-4-21 に示すとおりである。

調査地域の大部分は市街地及び工場地帯であり、その他に路傍・空地雑草群落、緑の多い住宅地及び造成地等がみられる。

イ 動物

(7) 動物プランクトン（資料 2-3（資料編 p.21）参照）

ガーデンふ頭南の動物プランクトンは、種類数及び個体数ともに夏季に多くなっている。主な出現種は、節足動物門の COPEPODA (nauplius) 及び *Acartia sinjiensis* 等である。

出典)「基本計画調査（環境影響評価調査（現況）」（名古屋港管理組合，平成 24 年）

(4) 底生生物（動物）（資料 2-4（資料編 p.22）参照）

ガーデンふ頭南の底生生物（動物）は、種類数及び個体数ともに春季に多くなっている。主な出現種は、環形動物門のシノブハネエラスピオ等である。

出典)「基本計画調査（環境影響評価調査（現況）」（名古屋港管理組合，平成 24 年）

(ウ) 付着生物（動物）（資料 2-5（資料編 p.23）参照）

大手ふ頭南の付着生物（動物）は、種類数及び個体数ともに夏季に多くなっている。主な出現種は、軟体動物門の二枚貝類であるコウロエンカワヒバリガイ及びマガキ等である。

出典)「基本計画調査（環境影響評価調査（現況）」（名古屋港管理組合，平成 24 年）

(イ) 魚卵・稚仔魚（資料 2－6（資料編 p.24）参照）

ガーデンふ頭南の魚卵の種類数は夏季に、個体数は秋季に多くなっている。稚仔魚の種類数及び個体数は夏季に多くなっている。主な出現種は、サッパ、カタクチイワシ及びカサゴ等である。

出典)「基本計画調査（環境影響評価調査（現況）」（名古屋港管理組合，平成 24 年）

(オ) 魚 類（資料 2－7（資料編 p.25）参照）

堀川における平成 25 年度（尾頭橋及び新堀川合流点）の調査では、ニホンウナギ、マハゼ及びカダヤシ等、4 目 6 科 11 種の魚類が確認されている。

山崎川における平成 25 年度（可和名橋）及び平成 26 年度（新瑞橋）の調査では、オイカワ、ドジョウ及びゴクラクハゼ等、8 目 13 科 27 種の魚類が確認されている。

出典)「市内河川の生き物と水環境」（名古屋市ウェブサイト）

(カ) 鳥 類（資料 2－8（資料編 p.26）参照）

大江川河口における令和元年～2 年度の調査では、11 目 27 科 61 種の鳥類が確認されている。季節では 10 月～4 月に確認種数が多く、年間の総確認羽数はカワウ、キンクロハジロ及びホシハジロが多くなっている。

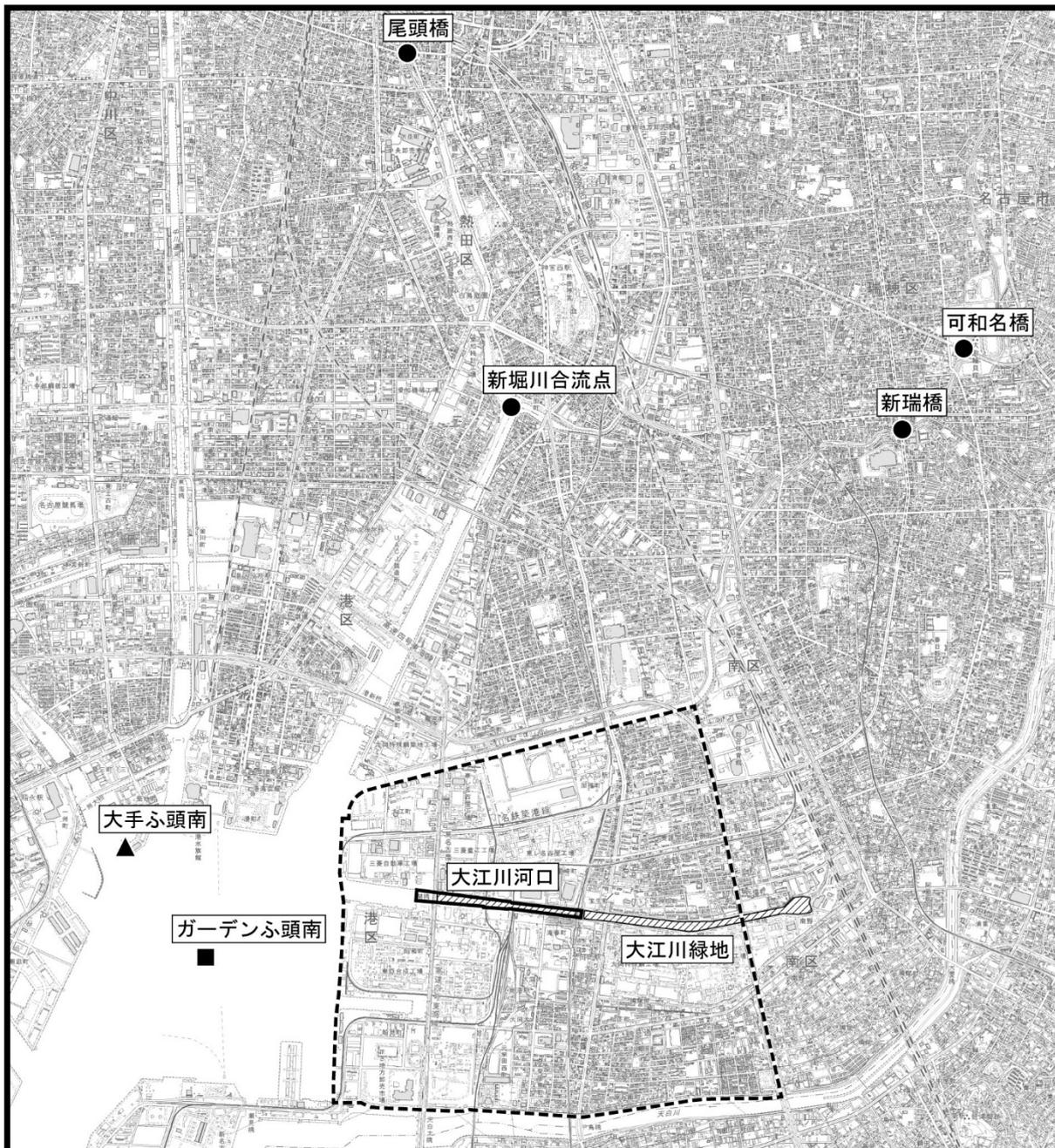
大江川緑地における令和元年～2 年度の調査では、8 目 25 科 52 種の鳥類が確認されている。季節では 3 月～5 月、9 月～11 月に確認種数が多く、年間の総確認羽数はカラバト（ドバト）、ヒヨドリ、カルガモ及びムクドリが多くなっている。

出典)「名古屋の野鳥（2019-2020 年度野鳥生息状況調査報告）」（名古屋市ウェブサイト）

(キ) 海棲哺乳類

伊勢湾・三河湾におけるスナメリの生息数は、水産総合研究センター国際水産資源研究所が 2003 年秋に実施した飛行機を用いた目視調査により、約 3,000 頭と推定されている。また、名古屋港内で 2011 年 8 月から毎月 2 回行われた船上からの目視観察結果では、2011 年 8 月から 2013 年 7 月までの 2 年間 48 回の調査で、スナメリが確認されたのは、24 回 73 群 165 頭であった。季節別では、夏季に少なく、冬季に多い傾向がみられた。また、名古屋港内では単独での確認が多く、5 頭以上の群れでの確認は少なかった。

出典)「名古屋港に生息するスナメリの調査」（海洋と生物 210 Vol.36-No.1）



- | | |
|---|---|
|  事業予定地 |  動物プランクトン、植物プランクトン、底生生物（動物）、魚卵・稚仔魚 |
|  調査地域 |  付着生物（動物）、付着生物（植物） |
| |  魚類 |
| |  鳥類 |

注) 本図面は、調査地域周辺の動植物の状況がわかるよう、縮尺を5万分の1として、本図面枠内の調査地点を示している。

出典) 「基本計画調査（環境影響評価調査（現況）」（名古屋港管理組合，平成24年）
「市内河川の生き物と水環境」（名古屋市ウェブサイト）
「名古屋の野鳥2019-2020」（名古屋市ウェブサイト）

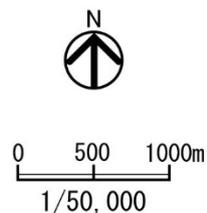


図 1-4-20 動植物（既往調査）の調査地点

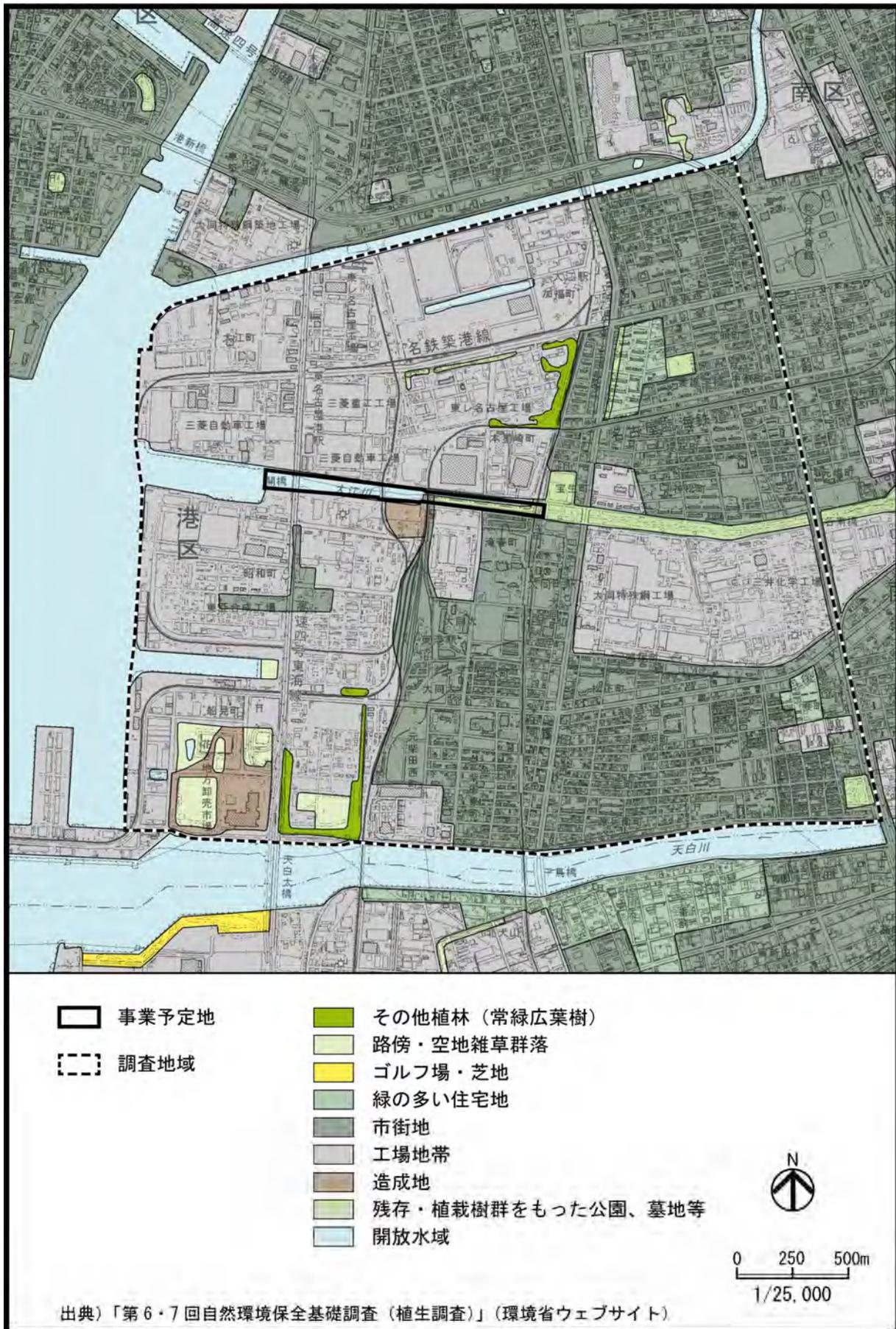


図 1-4-21 現存植生図

ウ 重要な種及び群落

(7) 重要な種

重要な種は、表 1-4-30 に示す選定基準に該当する種とした。

表 1-4-30 重要な種の選定基準

No.	略称	重要な種の選定基準と区分
1	天然記念物	「文化財保護法」(昭和25年5月30日法律第214号)に基づく天然記念物及び特別天然記念物 (区分) 特天:特別天然記念物 県:愛知県指定 天:天然記念物 市:名古屋市指定
2	種の保存法	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日法律第75号)に基づく国内希少野生動植物種、国際希少野生動植物種及び緊急指定種 (区分) 国内:国内希少野生動植物種 緊急:緊急指定種 国際:国際希少野生動植物種
3	環境省RL	「環境省レッドリスト2020」(環境省ウェブサイト)の選定種 (区分) EX:絶滅(我が国ではすでに絶滅したと考えられる種。) EW:野生絶滅(飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種。) CR:絶滅危惧IA類(絶滅の危機に瀕している種で、ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。) EN:絶滅危惧IB類(絶滅の危機に瀕している種で、IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。) VU:絶滅危惧II類(絶滅の危険が増大している種。) NT:準絶滅危惧(現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種。) DD:情報不足(評価するだけの情報が不足している種。) LP:絶滅のおそれのある地域個体群(地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。)
4	環境省海洋生物RL	「環境省海洋生物レッドリスト(2017)」(環境省ウェブサイト)の選定種 (区分) EX:絶滅(我が国ではすでに絶滅したと考えられる種。) EW:野生絶滅(飼育・栽培下でのみ存続している種。) CR:絶滅危惧IA類(ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。) EN:絶滅危惧IB類(IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。) VU:絶滅危惧II類(絶滅の危険が増大している種。) NT:準絶滅危惧(現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種。) DD:情報不足(評価するだけの情報が不足している種。) LP:絶滅のおそれのある地域個体群(地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。)
5	愛知県RL	「レッドリストあいち2020」(愛知県ウェブサイト)の選定種 (区分) EX・EW:絶滅・野生絶滅(愛知県ではすでに絶滅したと考えられる種。野生では絶滅し、飼育・栽培下でのみ存続している種。) CR:絶滅危惧IA類(絶滅の危機に瀕している種で、ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。) EN:絶滅危惧IB類(絶滅の危機に瀕している種で、IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。) VU:絶滅危惧II類(絶滅の危険が増大している種。) NT:準絶滅危惧(存続基盤が脆弱な種。) DD:情報不足(「絶滅」「絶滅危惧」「準絶滅危惧」のいずれかに該当する可能性が高いが、評価するだけの情報が不足している種。) LP:地域個体群(その種の国内における生息状況に鑑み、愛知県において特に保全のための配慮が必要と考えられる特徴的な個体群。)
6	愛知県指定種	「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」(昭和48年3月30日条例第3号)に基づく指定希少野生動植物種の指定種
7	名古屋市RL	「名古屋市版レッドリスト2020」(名古屋市ウェブサイト)の選定種 (区分) EX・EW:絶滅・野生絶滅(名古屋市ではすでに絶滅したと考えられる種。野生では絶滅し、栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種。) CR:絶滅危惧IA類(絶滅の危機に瀕している種で、ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。) EN:絶滅危惧IB類(絶滅の危機に瀕している種で、IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。) VU:絶滅危惧II類(絶滅の危険が増大している種。) NT:準絶滅危惧(存続基盤が脆弱な種。) DD:情報不足(評価するだけの情報が不足している種。)

調査地域及びその周辺における重要な種は、表 1-4-31 に示すとおりであり、海棲哺乳類 1 種、鳥類 13 種、魚類 11 種、二枚貝 1 種の計 26 種が確認されている。

表 1-4-31 重要な種一覧（既往調査等の確認種）

No.	分類	目名	科名	種名	確認地点	重要な種の選定基準											
						1	2	3	4	5	5(鳥類) 繁殖 越冬・ 通過	6	7				
1	海棲哺乳類	クジラ	ネズミイルカ	スナメリ	名古屋港内		国際			NT				CR			
2	鳥類	チドリ	チドリ	ケリ	大江川河口			DD									
3				イカルチドリ	大江川河口					VU	NT		NT				
4			シギ	ハマシギ	大江川河口				NT			VU		NT			
5			カモメ	コアジサシ	大江川河口				VU		EN	VU		VU			
6			タカ	ミサゴ	ミサゴ	大江川河口 大江川緑地				NT		NT			NT		
7		ツミ			大江川河口 大江川緑地						NT			NT			
8		ハイタカ		ハイタカ	大江川河口 大江川緑地				NT						NT		
9				オオタカ	大江川河口 大江川緑地				NT		NT	NT			NT		
10		ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ	大江川河口		国内	VU			VU	NT		VU			
11		スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	大江川緑地			VU							NT		
12				ムシクイ	オオムシクイ	大江川緑地			DD								
13				ヒタキ	アカハラ	大江川緑地							CR				
14				コサメビタキ	大江川緑地								NT				
15		魚類	ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ	新堀川合流点 新瑞橋			EN		EN				EN		
16	コイ		ドジョウ	ドジョウ	可和名橋 新瑞橋			NT		VU				VU			
17	ナマズ		ナマズ	ナマズ	可和名橋									NT			
18	サケ		アユ	アユ	新瑞橋									VU			
19	スズキ		カジカ	カマキリ	新瑞橋			VU		EN					EN		
20				カワアナゴ	カワアナゴ	新瑞橋					NT					VU	
21				ハゼ	トビハゼ	新堀川合流点				NT		VU				EN	
22					マサゴハゼ	新堀川合流点				VU		VU					EN
23					スミウキゴリ	新堀川合流点 可和名橋 新瑞橋											NT
24			ウキゴリ	新瑞橋											NT		
25	ダツ		メダカ	ミナミメダカ	可和名橋 新瑞橋			VU		VU					VU		
26	二枚貝	マルスダレガイ	フナガタガイ	ウネナシトマヤガイ	大手ふ頭南			NT						NT			
計	—	12目	19科	26種	—	0種	2種	16種	0種	8種	8種	5種	0種	22種			

注) 重要な種の選定基準は、前掲表 1-4-30 に対応する。

(イ) 重要な群落

重要な群落は、表 1-4-32 に示す選定基準に該当する種とした。

なお、重要な群落は、調査地域及びその周辺では確認されていない。

表 1-4-32 重要な群落の選定基準

No.	略称	重要な種の選定基準
1	群落 RDB	「植物群落レッドデータ・ブック」（財団法人日本自然保護協会・財団法人世界自然保護基金日本委員会、平成 8 年）の選定群落
2	特定植物群落	「第 2 回自然環境保全基礎調査」（環境庁、昭和 57 年）、「第 3 回自然環境保全基礎調査」（環境庁、平成元年）、「第 5 回自然環境保全基礎調査」（環境庁、平成 12 年）における特定植物群落

エ 生態系

調査地域及びその周辺は名古屋港湾奥部に位置し、西側は埋立地に工場地帯が広がり、東側は名古屋市南区の市街地となっている。河川は事業予定地である大江川のほか、北側には堀川及び山崎川、南側には天白川があり、閉鎖性の高い港湾に流下している。河岸及び海岸ともに人工護岸となっており、注目される干潟、藻場、砂浜等は報告されていない。全体的には人為的影響を強く受けた環境であるため、そこに成立する陸域生態系及び海域生態系ともに貧弱であると考えられる。

事業予定地及びその周辺についてみると、生物に関する既往調査等の情報は少ないが、鳥類は継続的・定期的に調査が実施されている。令和元年～2年度の調査結果によると、大江川河口にはヨシ原と工場内緑地を利用する小鳥類や、川面を利用する水鳥が確認されている。また、大江川緑地では、渡りシーズンに多種の鳥類を見ることができると報告されている。なお、「レッドデータブックなごや 2015 植物編」によると、大江川河口部には低湿地性植物のコギシギシ、塩湿地性植物のアキノミチヤナギの確認情報がある。

これらの情報を踏まえると、事業予定地及びその周辺の生物相は単調と考えられるものの、大江川にはヨシ原を中心とした湿地生態系、海域生物とつながりのある河川生態系が成立しているものと考えられる。また、大江川緑地には、まとまった緑地が少ない都市空間の中で、多くの鳥類が利用する樹林生態系が成立していると考えられる。

オ 緑地の状況

調査地域の都市計画公園及び都市計画緑地の分布状況は、図 1-4-22 に示すとおりである。

調査地域には、都市計画公園、都市計画緑地及び港湾緑地があり、水袋公園、千鳥公園等の公園が分布している。なお、事業予定地の東側には、宝生公園及び大江川緑地がある。

調査地域の緑被地の分布状況は、図 1-4-23 に示すとおりである。

緑被地としては高木、草及び芝の割合が多くなっている。なお、事業予定地の東側の大江川緑地には、まとまった高木がある。

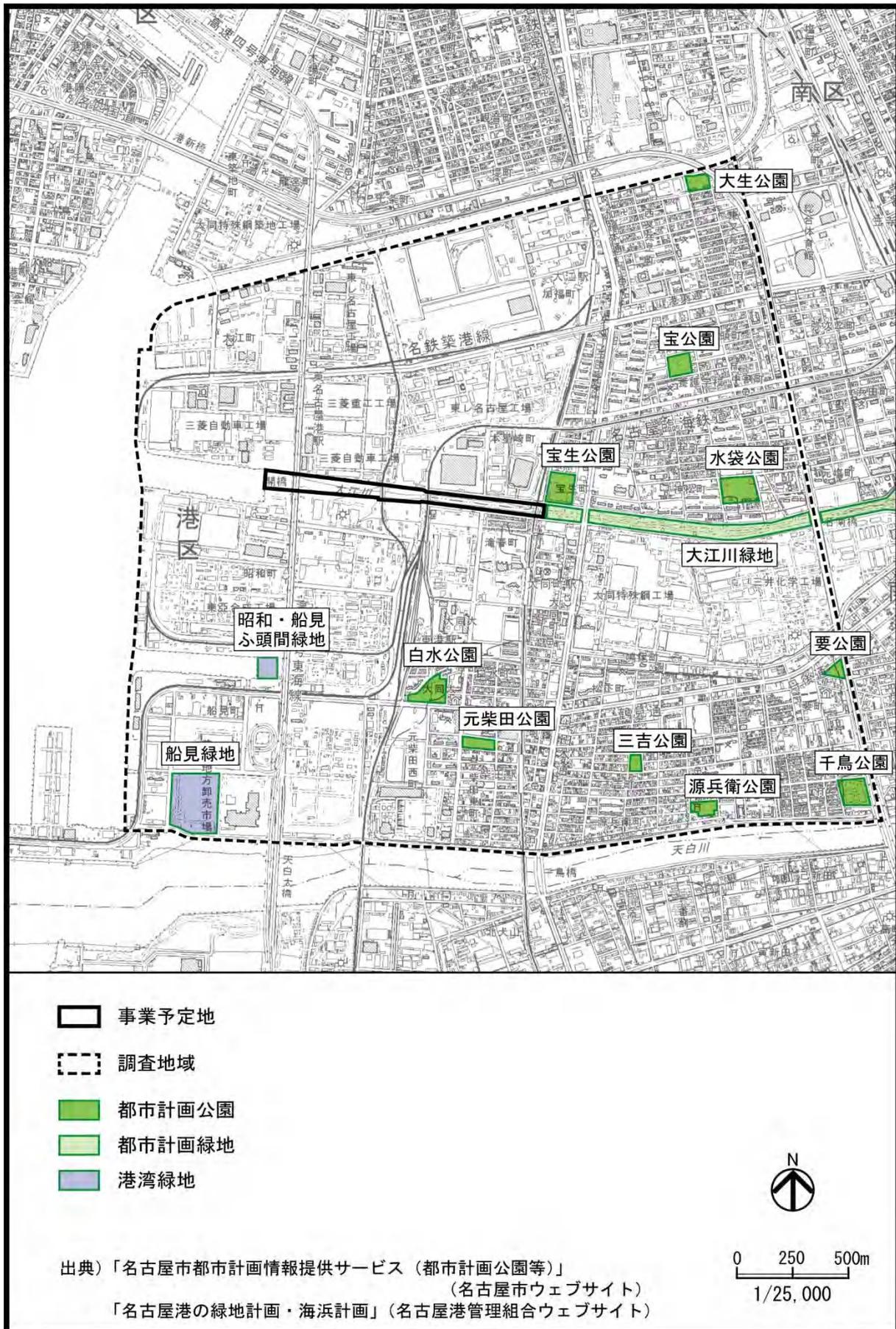
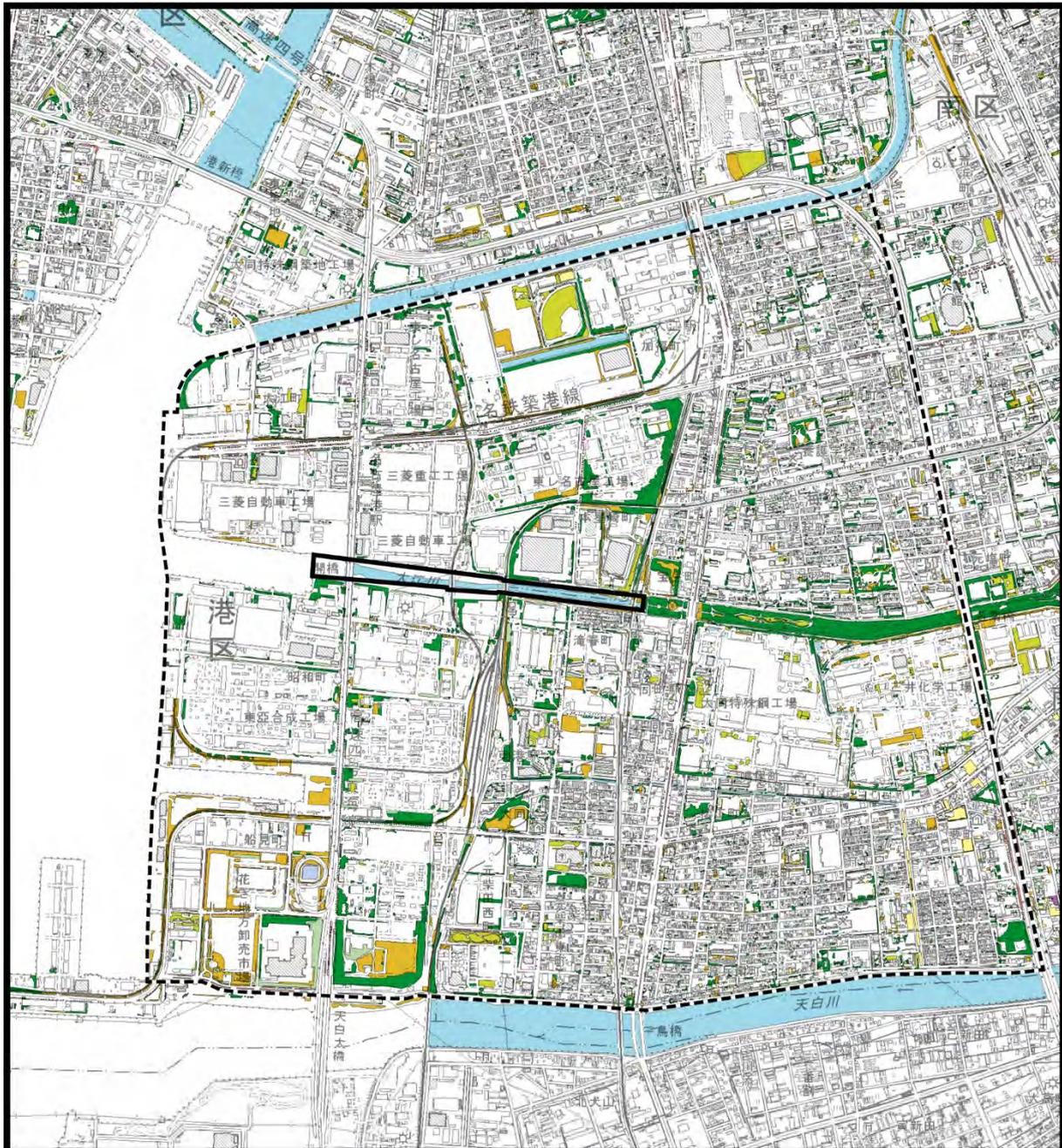


図 1-4-22 緑地の分布状況



- | | | |
|-------|-------|-----|
| 事業予定地 | 高木 | 畑 |
| 調査地域 | 低木 | 果樹園 |
| | 街路樹高木 | 河川 |
| | 街路樹低木 | ため池 |
| | 芝地 | |
| | 草地 | |



0 250 500m
1/25,000

出典：「令和2年緑被地 GIS データ」(名古屋市ウェブサイト)

図 1-4-23 緑被地の分布状況

(5) 景観及び人と自然との触れ合いの活動の場

ア 景観資源・眺望景観

調査地域は、大部分が市街地及び工場地帯であり、特筆すべき景観資源及び眺望景観は存在しない。

出典)「第3回自然環境保全基礎調査(愛知県自然環境情報図)」(環境庁,平成元年)
「都市景観重要建築物等指定物件」(名古屋市ウェブサイト)
「港区のまちめぐり」(名古屋市ウェブサイト)
「南区のまちめぐり」(名古屋市ウェブサイト)

イ 人と自然との触れ合いの活動の場

調査地域における人と自然との触れ合いの活動の場の状況は、図 1-4-24 に示すとおりである。

事業予定地の東側には大江川緑地があり、池、人工水路、芝生広場、サイクリングコース等が整備されている。また、季節により桜、彼岸花、紅葉が楽しめる。

ウ 屋外レクリエーション施設

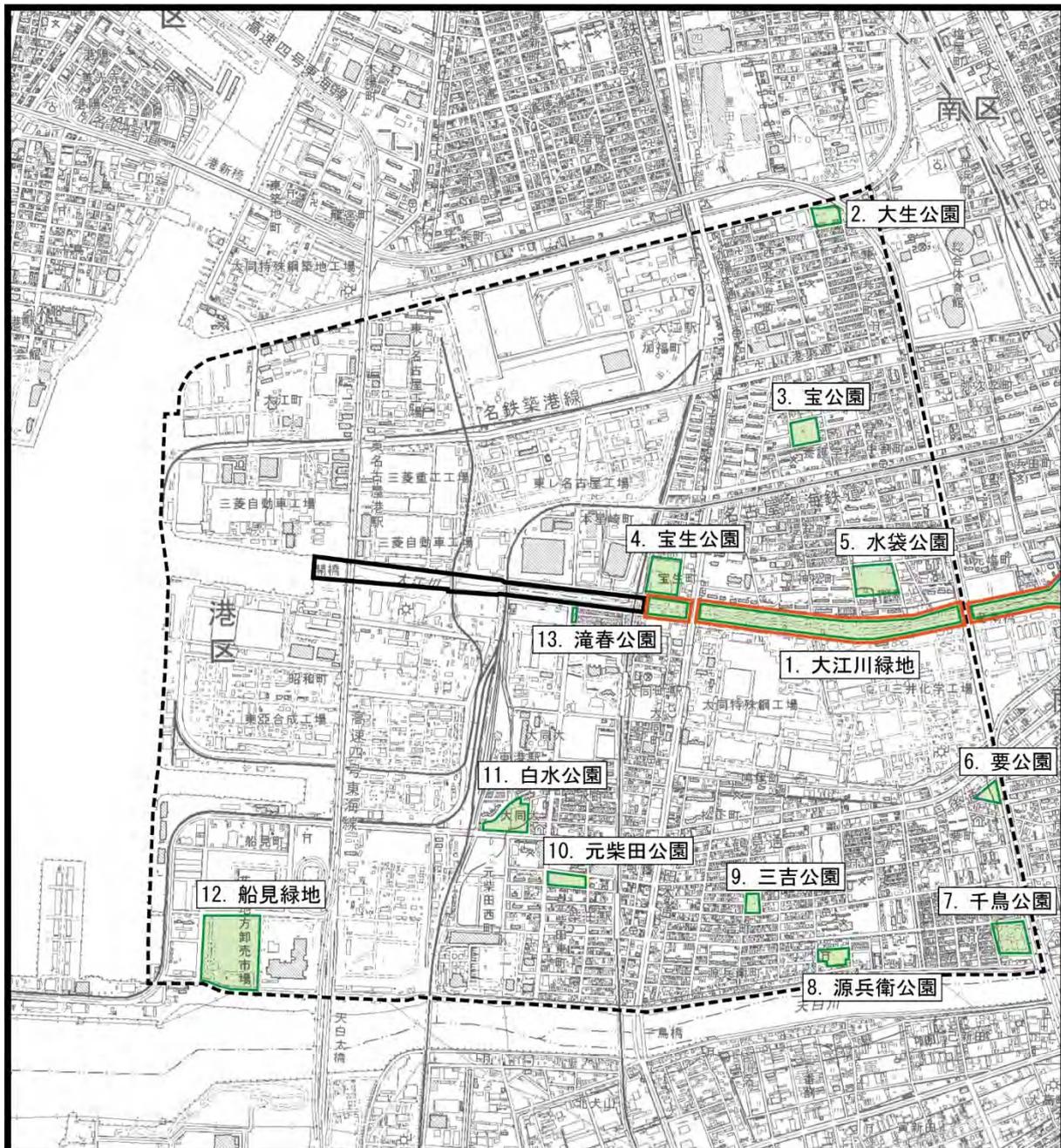
調査地域における屋外レクリエーション施設の状況は、表 1-4-33 及び図 1-4-24 に示すとおりである。

調査地域には13箇所の屋外レクリエーション施設があり、サイクリングコース、野球場、広場等が整備されている。

表 1-4-33 屋外レクリエーション施設の状況

No.	名称	概要
1	大江川緑地	芝生広場、サイクリングコース、人工水路、池
2	大生公園	広場、スポーツレクリエーション広場
3	宝公園	広場、児童球戯場
4	宝生公園	広場、野球場
5	水袋公園	広場、児童球戯場
6	要公園	広場
7	千鳥公園	広場、児童球戯場
8	源兵衛公園	広場、児童球戯場
9	三吉公園	広場
10	元柴田公園	広場、児童球戯場
11	白水公園	広場、野球場
12	船見緑地	広場、野球場
13	滝春公園	広場

出典)「名古屋市都市計画情報提供サービス(都市計画公園等)」(名古屋市ウェブサイト)
「公園・緑地など」(名古屋市ウェブサイト)
「港区のまちめぐり」(名古屋市ウェブサイト)
「南区のまちめぐり」(名古屋市ウェブサイト)
「名古屋港の緑地計画・海浜計画」(名古屋港管理組合ウェブサイト)



- 事業予定地
- 調査地域
- 人と自然との触れ合いの活動の場
- 屋外レクリエーション施設

注) 図中の番号は、表 1-4-33 に対応する。

出典) 「名古屋市都市計画情報提供サービス (都市計画公園等)」
(名古屋市ウェブサイト)

「公園・緑地など」(名古屋市ウェブサイト)
「港区のまちめぐり」(名古屋市ウェブサイト)
「南区のまちめぐり」(名古屋市ウェブサイト)
「名古屋港の緑地計画・海浜計画」(名古屋港管理組合ウェブサイト)



0 250 500m
1/25,000

図 1-4-24 人と自然との触れ合いの活動の場、屋外レクリエーション施設の状況

4-2 社会的状況

(1) 人口及び産業

ア 人口、世帯数及び人口動態

令和2年10月1日現在における人口及び世帯数は、表 1-4-34 に示すとおりである。
人口は、名古屋市は増加傾向を示しているが、港区、南区及び調査地域は減少傾向を示している。

なお、調査地域の人口は29,101人、事業予定地を含む町・丁目の人口は1,375人である。

1世帯当たりの人員は、名古屋市、港区、南区及び調査地域は、ほぼ同じ値である。

また、令和2年10月1日現在における年齢別人口構成比は図 1-4-25 に、昼夜間人口は表 1-4-35 に示すとおりである。

年齢別人口は、名古屋市と比べ港区及び南区ともに15歳未満及び15～64歳の比率は低く、65歳以上の比率は高くなっている。

昼夜間人口比率は、港区が約114%、南区が約100%であり、港区は事業活動等に伴い昼間に人口が増加する地域といえる。

表 1-4-34 人口及び世帯数（令和2年）

区 分	人口(人) (A)	世帯数 (世帯)	1世帯当たり の人員(人)	平成27年 人口(人) (B)	増加率 (%)
名古屋市	2,333,406	1,117,930	2.09	2,295,638	1.6
港 区	143,764	63,461	2.27	146,745	-2.0
南 区	134,631	62,133	2.17	136,935	-1.7
調査地域	29,101	13,959	2.08	30,179	-3.6

注)1:令和2年10月1日現在

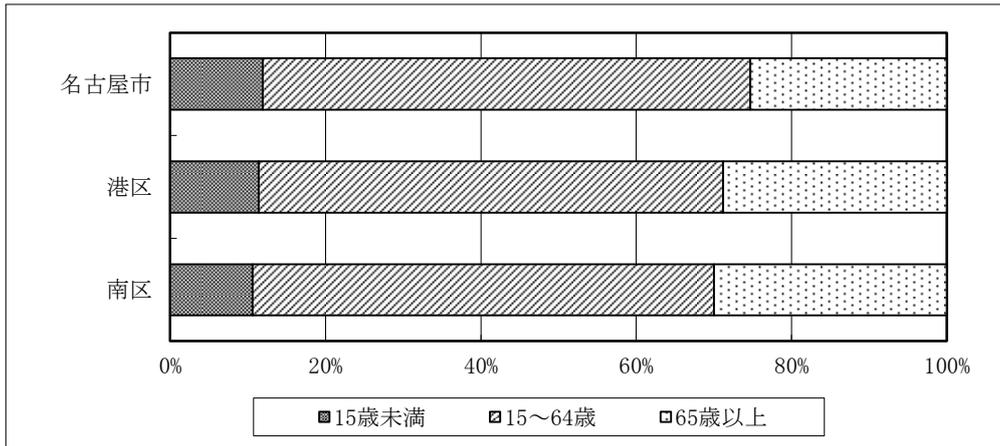
2:増加率(%) = $((A-B)/B) \times 100$

出典)「令和2年国勢調査 名古屋の町(大字)・丁目別人口(速報値)」

(名古屋市ウェブサイト)

「平成27年国勢調査 名古屋の町(大字)・丁目別人口」

(名古屋市ウェブサイト)



注) 令和 2 年 10 月 1 日現在
 出典) 「令和 2 年度国勢調査 名古屋市の人口と世帯数 (確定値)」
 (名古屋市ウェブサイト)

図 1-4-25 年齢別人口構成比 (平成 27 年)

表 1-4-35 昼夜間人口 (平成 27 年)

区 分	昼間人口 (人)	夜間人口 (人)	昼夜間 人口比率 (%)
名古屋市	2,569,376	2,263,894	113.5
港区	170,191	149,215	114.1
南区	141,832	141,310	100.4

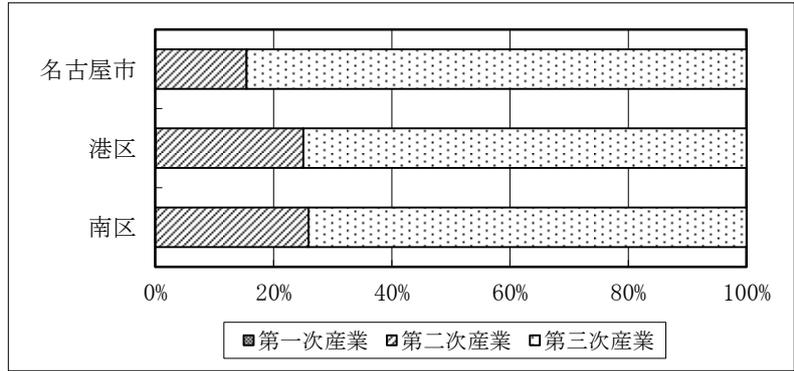
注) 1: 平成 27 年 10 月 1 日現在
 2: 昼夜間人口比率 = (昼間人口 / 夜間人口) × 100
 出典) 「平成 27 年度国勢調査 名古屋の昼間人口」
 (名古屋市ウェブサイト)

イ 産 業

名古屋市、港区及び南区の平成 28 年 6 月 1 日現在における産業別事業所数の割合は図 1-4-26 に、産業別従業者数の割合は図 1-4-27 に示すとおりである。

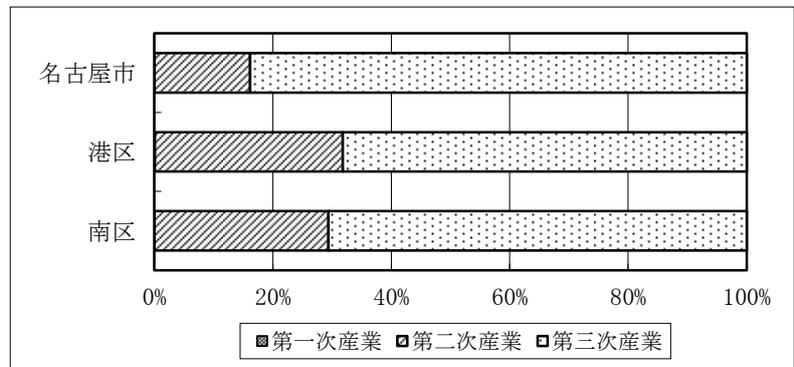
名古屋市、港区及び南区における事業所数及び従業者数は、第三次産業の割合が高くなっている。

名古屋市との比較では、第三次産業の事業所数及び従業者数の割合は、港区及び南区ともに名古屋市よりも低く、第二次産業の割合は名古屋市よりも高くなっている。



注) 平成 28 年 6 月 1 日現在
 出典) 「平成 28 年度 経済センサス活動調査 (確報) 結果の概要」
 (名古屋市ウェブサイト)

図 1-4-26 産業別事業所数の割合



注) 平成 28 年 6 月 1 日現在
 出典) 「平成 28 年度 経済センサス活動調査 (確報) 結果の概要」
 (名古屋市ウェブサイト)

図 1-4-27 産業別従業者数の割合